



コロナ禍の中で保育をどう作ってきたか

1. 園の概要

福智中央保育園は、福岡県の筑豊地区に位置しており、2019年4月に福智町から民間移譲を受けて今年度で4年目に入りました。

一年目は、移管前の三者協議会（保護者、行政、法人）の中で、公立保育所の行事は引き継いでほしいという保護者から強い要望があり、とりあえず行事については引き継いでいくことで合意していました。

前公立保育所の主任保育士に一年間引継ぎのために残ってもらって、毎月入って来る行事を教えてもらいながら何とかこなしてきました。

二年目からは、自分たちがやりたい保育と、公立保育所の時のように見栄え良く見せる（踊り等）行事中心の保育を見てきた保護者との間に大きな隔たりを感じ、保護者への理解を得るためには時間をかけてじっくり関わっていくしかないと感じました。

また、法人からの異動職員と前保育所の職員、そして新しく採用された職員との保育観の意思統一を図っていくには、職員間で子どもにとって大切なことは？子どもの発達に寄り添う保育とは？を前提にお互いの思いを出し合い話し合いながら一致させていくしかありませんでした。

2. コロナ禍の中で保育をどう作ってきたか

2020年度はコロナ感染拡大で福岡でも緊急事態宣言が発出されてから、毎日の園児の受け渡しを玄関先で行い保護者を園内に入れず、常に職員が園児を受け取る方法を取りました。又、三密にならないように可能な限りクラス別保育を保障するために、主任、園長、事務職員で玄関での受け入れを行っていききました。

お誕生会や毎日行っているリズムも合同では行わない、保育参観も予定していましたが、延期としました。又恒例の行事（お泊まり保育、夏祭り、運動会、発表会、卒園式、伝統行事）についても、コロナ感染対策を優先した取り組みとなり、あらゆる面で制限しての行事開催となりました。毎年盛大に行っている夏祭りは子どもと園児だけで行い、お泊まり保育は泊まらずにデイキャンプ、運動会については4.5歳児だけ入れ替え制で行い、0歳から3歳クラスは運動会ごっこを設定して撮影し、DVDに編集して保護者に配布しました。保護者からは、「園で過ごしている様子が視ることができ良かったー、子どもと一緒に何度も視ました」という感謝の言葉を多く聞くことができました。私自身、「コロナだから何もできない！」ではなく、これまで当たり前でできたことができなくなったことで、保護者とのコミュニケーションが取りづらくなったことを危惧していました。そんな中、ちょっとした行き違いで保護者からのクレームが今まで以上に出てきたことで、コロナの影響で保護者とのコミュニケーションの機会が少なくなったために信頼関係が希薄になっていることを実感させられた日々でした。



園で初めて陽性者が出たとき保護者との繋がりは？

2021 年度に入り全国的にもデルタ株による感染者が増える中、7 月下旬に陽性者が確認され、保健所の指導の下、該当クラスが 2 週間の自宅待機期となりました。園からのケアとして 3 日ごとに、保護者に電話を入れて園児の健康状態を聞くのと合わせて、「外に出られないのでテレビ浸けになっている」「元気すぎて大変、早く保育園に行かせたい」保護者の思いにも対応していきました。しかしながら、この長い期間をこのまま電話連絡だけでいいのか、何らかの形で保護者や子どもたちと繋がれないかと考え、オオカミごっこで遊んできていたので、子どもたち全員にオオカミさんから手紙を届けようというアイデアが出てきました。担任で手分けをして可愛いおおかみさんの絵入りお手紙を作成し、健康観察機関が終了する 2 日前に届くように郵送しました。待機期間終了の日に電話をすると、「オオカミさんから手紙が来て大喜びです」「手紙を肌身離さず持っていました」という親子で喜んでもらったことに、保護者と繋がれたという実感を持つことができました。



お泊り保育の取り組みで保護者と子育ての共有

年長児のお泊まり保育については、いつも 6 月に行っていましたが緊急事態宣言が出ていたので延期していました。しかし、年長クラスの個人懇談会の中で保護者からお泊まり保育についての問い合わせが多くあったので、クラス懇談会を開いて保護者の意見を聞くことにしました。

「親元を離れて自分たちで泊まるという経験をさせてほしい」

「友達と一緒に 1 日過ごし泊まる事で自立心・心の成長につながると思う」

「園外に泊まるのはコロナ感染が心配になるが、園内であれば毎日生活しているところなので安心」という意見が大半だった。

保護者の意見を踏まえて園としてどう取り組むべきか、職員間で話し合いを重ねていきました。私自身保護者がお泊まり保育に取り組むことを我が子の成長に取って大切な取り組みであるという事を、これまでの園の保育を通して感じてくれていることを知る機会となり、職員一同で何とかお泊り保育を実現させようという職員集団へと変化していきました。まずは感染対策を考えて、年長児にかかわる職員を限定し、泊まる職員は 2 日前までに施設の負担で PCR 検査を受けて陰性であることを確認したうえで無事お泊まり保育を実施することができました。

これからも、コロナ感染症がなくなるわけではないでしょうし、また新たな感染症が出てくるのでしょうから、今後も園の在り方としてマイナス思考ではなく、子どもの育ちにとってどうなのか？どうしたら保護者と子育てを共有できるのか、行事の在り方も含め常に前向きに取り組んでいきたいと思っています。



福岡県・福智中央保育園 園長 金田るみ子

☆リレートーク、次は長崎県です！